

私と図書館

本好きのあなたを 世界で二番目に 美しい本屋へご招待

山野 明男 (教養部)



私の専門は地理学のため趣味と実益を兼ね見知らぬ土地へ出かけることが多い。海外旅行では現地に着くとまず地図の購入目的で本屋に立ち寄ることにしている。昨年春の南米旅行中、アルゼンチンのブエノスアイレスでは「世界で二番目に美しいといわれる本屋」に案内してもらった。

多くの買い物客でにぎわうサンタ・フェ通りに面し、スペイン風のコロニアル様式やフランス洋式の古い建物が立ち並ぶ地区にある本屋の名前は「エル・アテネオ書店」と呼ばれ、この建物の中に入ってびっくり、オペラハウスに入ったと思われる劇場タイプの本屋さんだった。

歴史を紐解くと、この建物は1919年に建てられた「グランド・スプレディッド劇場」で、その名にふさわしく荘厳な姿をしている。内部はフレスコ画の描かれた天井や華麗な劇場のボックス席、優雅な円形をしたバルコニー、ピロード地の真紅の舞台カーテンを施している。当時の劇場では、劇・アルゼンチンタンゴ・コンサートが上演されていた。劇場所有者であったマックス・ブルックスマンはタンゴ界の指導的人物であり、1924年には一室にラジオ局を開設、同時に影響力のあるレコード会社の所有者でもあったため録音もここで行われたという。

1929年、劇場は映画館へと最初の変貌を遂げる。ブエノスアイレスで初めて有声映画を上映した。取り壊しの話もあったが、2000年に書店グループが300万AR\$をかけ「エル・アテネオ書店」へと改装した。

その良さは、劇場当時の設計が見事に保持されていることである。客席部分は書架、ボックステラス席はそのまま残し読書スペースにし、好きな本を手腰掛けてじっくり吟味することができる。正面の舞台は壮麗な建築空間を味わいながら休憩できる喫茶店になっている。約12万冊の世界中の本が揃い、4階から地下1階までエレベーターやエスカレーターで移動でき、毎日約3,000人が訪れるという。4階のバルコニーから天井のフレスコ画を仰ぎ見、1階まで見下ろすとその光景は圧巻であった。こんな図書館があればと思わせる贅沢な本屋である。

因みに世界で最も美しい書店の第1位は、オランダのマーストリヒト市の「セレクトシーズ書店ドミニカ教会店」で教会を再利用したもの。是非覗いてみたいと思っている。